

# NEWS



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203 (サンピア2F)

TEL078-230-9774 FAX078-230-9786

E-Mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

## スリランカと中越をとおして想う

7月初旬に、CODE(海外災害援助市民センター)の要請でスリランカの津波被災地を訪問する機会がありました。また帰国してすぐに「市民社会フォーラム」で中越被災地についての議論に参加することが出来ました。

スリランカ訪問の目的は、被災した漁民が結成しようとする協同組合の支援です。近海でとれた魚を近くの市場で売り、残りは自分達で食べたり干物にしたりする暮らしをしています。津波は、彼らの舟を奪ってしまいました。支援で得た少ない舟や漁具を共有して組合を運営しようという試みです。仏教の教えに基づく相互扶助の仕組みが昔あったそうですが、その考えを復活させようというものです。

一方、市民社会フォーラムでは、中越復興の重要なキーポイントとして、地域産業の復興とコミュニティビジネスの可能性について議論されました。特に中山間部における災害という点で、過疎の集落が存続できるのかどうか大きな問題となります。米づくりの近代化が言われていますが、中越のブランド米の多くは、棚田に代表されるように山間地の小規模農地でつくられています。

スリランカでも中越でも経済効率にはほど遠いところで、経済と暮らしが分かちがたく結びついているのが実感されました。都市部に住んでいる私たちが、いろんなボランティア活動を立ち上げるなかで生まれてきたコミュニティビジネスも経済(生産・流通)と暮らしを結びつける試みであるとするれば、スリランカも中越も想像力を働かせれば身近なものに感じられるのではないのでしょうか。

今、世界中で国際企業が開発途上国に進出しているグローバルイズムが批判されていますが、国内的にもナショナル企業の進出で経済の一人歩きにより地域の特性が失われて行く中、経済と暮らしの結びつきも失われつつあります。これを押し留めるのは、ボランティアな活動とコミュニティビジネスなどの「もうひとつの(オルタナティブな)経済」ではないのでしょうか。しみん基金・KOBÉが、草の根の活動支援を通じて、「もう一つの経済」を支える役割を担うことができます。良いと思います。

しみん基金・KOBÉ 常務理事 野崎隆一

## 目次

▼スリランカと中越をとおして想う

▼ぼたんの会の取り組み  
竹下景子トークショー  
ぼたんの会・夜会

▼平成十六年度はあくどふる  
助成合格団体のこえ

▼オレンジスリフティ訪問記

▼平成十七年度総会報告

▼助成金情報掲示板

▼十年目のひとりごと

▼ご寄付いただいた方々

▼あとがき



竹下景子トークショー

1月18日松方ホールにて、「震災10周年、竹下景子さんをお迎えして」と題してトークショーが行われました。

神戸新聞社の社会部記者磯辺康子さん、アートサポートセンターの島田誠さん、しみん基金こうべ理事長の黒田裕子が、竹下景子さんのお話のお手をさせていただきました。

また、トークショーをはさむようにして、ヴァイオリンの金関環さん、ピアノの高島春樹さんのコンサートがあり、会場に詰め掛けた参加者の方々の心にしみ入る素晴らしい演奏を奏でました。



毎年、「復興支援コンサート」で被災された方の作られた詩の朗読を続けてこられた竹下さんは、「最初の頃は、震災の体験を直接あらわした詩が多かったように思います。その方その方の体験からしか生まれない気持ちがあまりにも重くて、それを自分の中で伝えるのは大変だなと思うこともありました。…年月を経ることによって、未来に向けての思いが感じられるようになりました。

昨年感じたのは、それでもやっぱり、失ったものへの悲しみ、痛みは抱えたままということです。表面は笑顔で生活しているように見受けられても、痛み苦しみは同じようにあり、それを乗り越えて今があると感じました。

10年という年月の間に、小さい子供は中学生、高校生に育っているということ。…

一つ一つの記憶を忘れないでほしい。個々の体験を乗り越えたところで明日にどのように繋げていくか、そういう作業をしていく時期なのかなと思います。…」と語られました。

トークショーの最後に、竹下さんは、詩集「明日への記憶 ～1・17のために～」より、被災された方の書かれた2つの詩「ミモザの花」（水澁町子作）と、「一月十七日 君へ」（堅田富貴子作）を朗読されました。

～アンケートより～

今年は震災10年目の年ということもあり、市内の各地で追悼公演が催されましたが、これまで参加した公演の中でも、本日の公演が一番内容が濃かったと感じました。竹下景子さんの「復興支援コンサート」での詩の朗読は、震災50周年の年まで毎年続けていただきたいと思います。マイメモリーの生演奏にもとても感動いたしました。金関さんと高島さんは最高のコンビでした。（40才男性）



取り組み  
ぼたんの会の



神戸のNPO/NGOが協力して取り組んでいる「ぼたんの会」は、自立のための財源確保のシステムとして、定着しつつあります。「ぼたんの会」の事業は、そこに参加される皆さんが、近況を語り合い、文化を楽しみながら、次代を担う人材や市民活動団体を財政的に支援することを目的としています。

多くのNPO/NGOが協力して、社会的な意義をもつ事業に取り組む、貢献に応じて収益の還元を受けるだけではなく、事業を通じて新しい交流の輪が生まれることを目指しています。

今年は一月に女優の竹下景子さんをお迎えしてトークショーを、また、五月には、ぼたんの会・夜会が行われました。



風に吹かれながらガーデンでの食事

五月二十日、異人館に囲まれた北野ガーデンで、ぼたんの会・夜会が  
開かれ、三百人以上の参加者が訪れました。青々と光る芝生を踏み歩き  
ながら歓談したり、珍しい古典舞踏を見たりして、楽しいひとときを過  
ごしました。ヴィッセル神戸のプレーヤーや明会の小山乃里子さんもお  
忙しい中、かけつけてくださいました。会場には、テノールやメゾソフ  
ラノの美しい声やトランペットの華やかな音色や、マジックに翻弄され  
た参加者の笑い声が響きました。



闇に浮かびあがる  
南インド古典舞踊



ヴィッセル神戸の外人プレーヤー達も家族連れでなごやかに



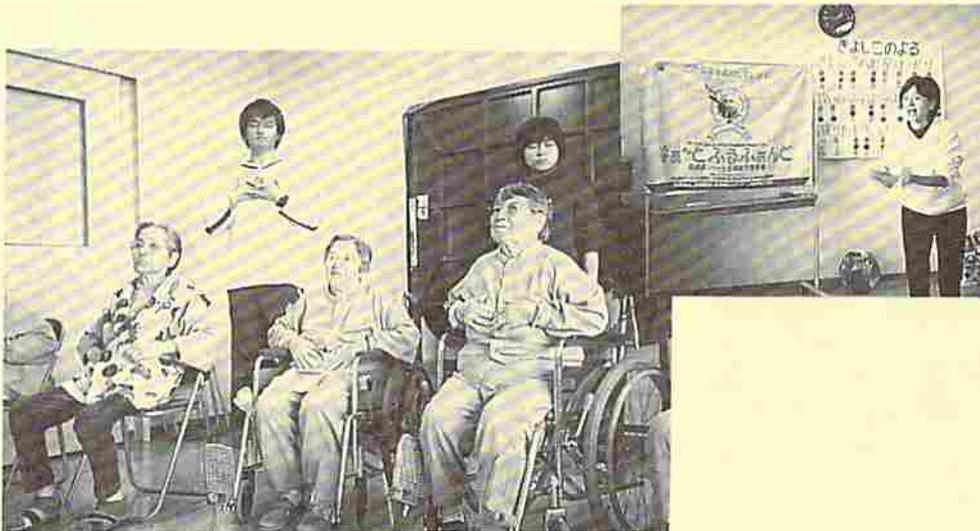
嶋本高之さんのトランペット



松本薫平さんと木下千佐子さんにいざなわれて  
オペラ「カルメン」の世界へ

夜会は今年で三回目、会費の半分は、復興の過程で地域社会に根付い  
て活動が続けてきた多くの団体に寄付されます。  
普段は活動の場を異にするため、なかなか顔をあわせる事のない団体  
スタッフ達が、話し込む姿も見られました。また、家族づれで参加して  
活動仲間を家族に紹介する光景も。  
来年の開催と再会を誓って夜会は盛況のうちにお開きとなりました。

平成16年度



震災から10年が経ち、当時、60代だった方々で復興に頑張ってきた方々が入所なさっている施設に参りますと、お一人お一人の人生が垣間見れたりすることもあり、本当にご苦労様でしたという気持ちになります。職員の方も日常生活のお世話がとても大変そうで、少しの間でも、入所者の方々も職員の方々も楽しんで頂けたらと思ひ、色々な曲やゲームなどの企画をして訪問させて頂いて居ります。今回は打楽器の購入に貴助成金を使わせて戴きまして、セッションで使用しております。握ったり叩いたりする動作によって少しでも機能回復に役立ったり、また音を聞いて感じることによって心の安らぎになっていただければと思ひ頑張っていますので、今後共、私達の様な底辺で活動していらっしゃる多くの方々に協力して頂ければ幸いでないかと思ひます。

(平成16年度はあ〜とふるふあんど  
助成金合格団体「ハーモニー」 文・写真とも)

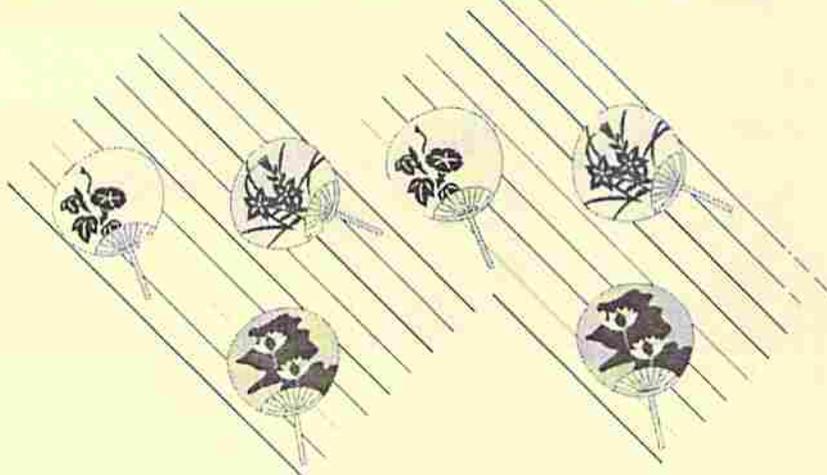
☆平成16年度のはあ〜とふるふあんど助成合格団体より寄せられたお便りを御紹介いたします。  
(しみん基金こうべは、はあ〜とふるふあんど助成金の事務のお手伝いをさせていただいております。)尚、平成17年度合格団体は以下の通りです。

平成17年度はあ〜とふるふあんど合格団体一覧

No	団体名
1	グループ・リハ
2	須磨区市民ふれあいコンサート実行委員会
3	老人会ふれあい鶴亀会
4	みかげふれあい健康麻雀会
5	日本昔ばなしの会
6	(特) SUN座
7	上郡プロバスクラブ清流会 結婚相談所
8	特定非営利活動法人バイオマスフォーラムたんば
9	兵庫県移送サービスネットワーク
10	特定非営利活動法人黄河の森緑化ネットワーク
11	すみれ会
12	輪になろう芦屋親の会(ワップ会)
13	MOA美術館芦屋児童作品展実行委員会
14	(特) にじのかけ橋
15	兵庫県車椅子バスケットボール連盟
16	芦屋市障害児教育研究協議会
17	(特) 三田ラグビーフットボールクラブ
18	くすのきグループ
19	ガールスカウト日本連盟兵庫県第61団
20	兵庫県スポーツバトン協会
21	ハーモニーズ
22	小野市ひまわり会
23	市場「水辺の楽校」推進協議会
24	特定非営利活動法人 国際音楽協会
25	C O D E 海外災害援助市民センター
26	特定非営利活動法人マザーサポートの会
27	車椅子ダンスひめじ
28	アルファグリーンネット西淡支部
29	被災高齢者識字教室「ひまわりの会」
30	神戸大学障害者解放研究会
31	月が丘子育て支援バンダ
32	手づくりボランティア(かえで)
33	珍ちくりん劇団
34	兵庫県スポーツチャンバラ協議会



平成17年度はあ〜とふるふあんど表彰式 (平成17年5月於新神戸オリエンタルホテル)





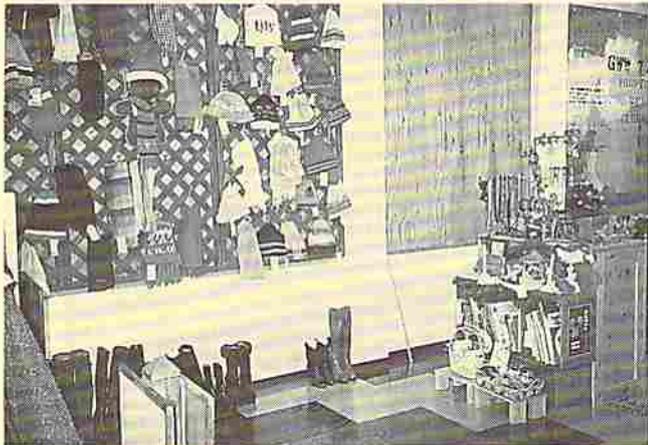
### 定着しつつある新システム

しみん基金こうべでは、市民の皆様からいただきました会費、寄付金等を基礎として、様々な市民活動をされておられる団体様のための助成事業を展開してきました。

しかし財政的な状況は、まだまだ充分とはいえません。そこで、昨年より、新たなシステムを導入しました。

そのひとつは、家電や衣類のリサイクル寄付事業です。このうち、衣類のほうは、衣類やバッグ、アクセサリ等を扱う業者さんである「オレンジスリフティ」様にご協力をいただいて進めています。

オレンジスリフティの店頭で衣類の寄付を受付けていただき、査定の後、換金した額の一部をしみん基金こうべに寄付していただくというしくみです。



衣類の入った紙袋を抱えて店内に入ると、若い女性の店員さんが、「チャリティーのお品ですね」と、にこやかに声をかけてくれました。

そして、しみん基金こうべのリサイクル寄付システムの説明をわかりやすく書いた紙を出してチャリティーシステムの説明をしてくれました。

六甲店は、4人の店員が交代制で、年中無休の体制を維持しているそうです。店に置いている多くの品は、オーナーがアメリカやヨーロッパから仕入れた衣類。値札にEnglandなどの国名表示がありました。

20分ほどおじゃましましたが、いろいろなお話が聞けて楽しいひとときでした。こういうお店なら、と安心して六甲道を後にしました。



オレンジスリフティ

訪問記

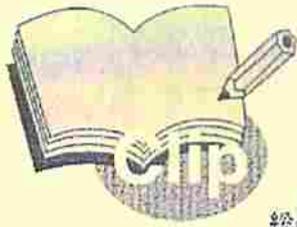
オレンジスリフティ六甲店は、築年数浅い感じ。清潔で明るい雰囲気。広々としたフロア。



商品の置き方にも適当に空間があり、床板は店名（ORANGE THRIFTY）の入った木製、濃淡のある茶色の板を交互に配したおしゃれな感じ。BGMは軽快なウェスタン風。色とりどりの子供服や大人の衣類がハンガーにかかっています。一見して古着屋さんという印象はなく、おしゃれな子供服のブティックのよう。



オレンジスリフティ六甲店  
連絡先  
tel 078-858-7090



## 平成17年度総会報告

5月27日(金)、しみん基金こうへ事務局にて定時総会が開催されました。議案である平成16年度の事業報告・決算、平成17年度事業計画・予算について審議が行われ、すべて承認されました。

平成17年度の主な事業予定を御紹介させていただきます。しみん基金こうへの助成事業は、10月頃に予定しております。また、提携事業は、昨年から引き続いて、衣類や家電のリサイクル寄付事業、阪神高齢者・障害者支援ネットワーク様からタオルなどのバザー売り上げを寄付していただく形での事業を予定しております。さらに、はぁ〜とふるふぁんど委員会からの受託があれば、事務をお引き受けする予定でございます。その他、ぼたんの会事務局等も継続させていただきます。

最後に、しみん基金こうへは、災害救援をきっかけに発足して以来、皆様からの会費やご寄付などをもとにして活動を続けてまいりました。しかし、財政面につきましては寄付額が減少し、団体への支援活動を継続するにあたって、十分な財源が確保されている状態とはいえません。今後ともみなさまからのご支援、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

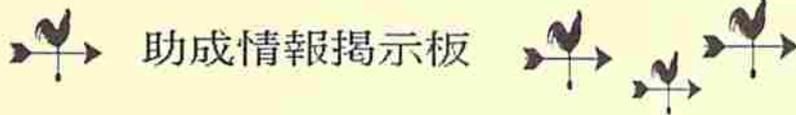
### <平成17年運営体制>

理事長	黒田裕子
副理事長	村井雅清
副理事長	西 正興
専務理事	瀬戸口仁三郎
常務理事	野崎隆一
理事	戎 正晴
理事	大賀重太郎
理事	飛田雄一
理事	村上和子
理事	山岸ひろ子
理事	山岡 誠
理事	渥美公秀
理事	奥井秀樹
監事	森田拓也
監事	佐藤庸安



本年度もよろしくお願いいたします。





〔県民ボランティア活動助成〕

この助成金は、県民の地域活動への主体的な参加を促し、ボランティア活動の裾野を拡大するとともに、県民自らが行うボランティア活動の支援を通じて、活動の安定的かつ継続的な発展を図ることを目的としています。

助成金の交付を受けようとするグループ・団体は、各市区郡町社会福祉協議会へのエントリー（事前申込）書の提出が必要です。

対象団体：平成17年度にNPO法の定める17分野の活動を12日以上行う構成員5人以上の県内のボランティアグループ・団体  
その他要件あり

一件あたりの助成金額：対象経費の2分の1以内（上限3万円）

エントリー書受付期間：平成17年7月1日（金）～9月9日（金）  
申請は助成要件を満たした段階で随時提出

お問い合わせ先：ひょうごボランティアプラザ（兵庫県社会福祉協議会）  
TEL078-360-8845 FAX078-360-8848  
URL：http://www.hyogo-vplaza.jp/



兵庫県社会福祉協議会から  
情報をいただきました。

〔高齢者福祉助成〕

活力あふれる長寿社会を実現するため、高齢者を対象にした福祉活動や高齢者の社会参加を支援する活動に対して助成する。

対象：高齢者を対象とする地域福祉活動や高齢者の社会参加支援活動で、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、神戸市の社会福祉協議会の推薦を受けた活動

現場で汗を流して活動されている団体・ボランティア等の先駆的・継続的な活動を歓迎  
その他要件あり

一件あたりの助成限度額： 30万円

助成対象の活動期間：平成18年4月～19年2月末まで

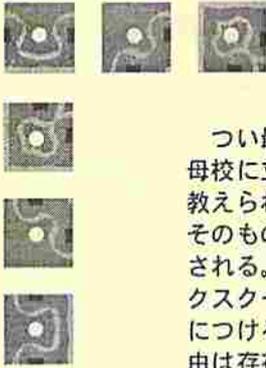
お問い合わせ先： 上記各社会福祉協議会  
または 大阪ガスグループ福祉財団  
TEL 078-242-4633（兵庫県社会福祉協議会）  
078-271-5314（神戸市社会福祉協議会）

大阪ガスグループ福祉財団から  
情報をいただきました。



information 05'08 for you

.....このページは、いろいろな団体の助成金に関する情報を掲載するコーナーです。助成金広告の掲載をご希望の方は、しみん基金こうべの事務局までご一報ください。



## 10年目のひとりごと

～ 落ちこぼれ ～

つい最近、高校の同窓会の案内が届いた。落ちこぼれ学生だった私は、卒業して以来、母校に立ち寄る機会もなく、同窓会にも顔を出したことさえないが、ふと、母校で最初に教えられたことを思い出した。私の通った公立高校では、入学式の日、「この本の中身、そのものが当校の精神であるので、しっかりと熟読するように」と全員に一冊の本が手渡される。本のタイトルは「自由と規律」著者の池田潔氏が1920年代に英国・パブリックスクールで受けた教育を描いている。自由と放縦を区別し、若いうちに自律の精神を身につける教育は、日本の多くの教育関係者にも影響を与えている。「規律あるところに自由は存在し、自由あるところには規律が存在する」という考え方である。また、「規律とは教えるものではなく、学校生活を通して自らが学び、実践するものである」となる。一般社会において通用する自律の精神を培うこと、そして、社会のルールをわきまえた上で、主張すべきは主張することが求められる。そこには、自立と自律を兼ね備えた個人の確立が不可欠なのだ。英国では、このような精神的、文化的な基盤に支えられて、グラウンドワークやチャリティコミッティ等のボランティアな活動や組織が地域に根ざし存在している。そして、社会において「公」の一部をしっかりと担う存在となっている。

ボランティアな市民活動（NGO・NPO）が日本において、社会的に取り上げられるようになって10年余り、活動のフィールドは広がり、様々な場面で活躍が見られる。しかし、市民活動が本当に「公」の一部を担っていくとすれば、それを支える精神的、文化的基盤がしっかりとしていなければならないし、私たち市民活動団体自身も、自立と自律を兼ね備えた「自由と規律」ある存在へと変わっていく必要性を感じる。20数年前に教わった事を今頃になって思い返す私は、やっぱり落ちこぼれに違いない。

瀬戸口仁三郎



皆様、ありがとうございました。

◆寄付者・募金一覧  
（敬称略・順不同）  
柳田邦男・浦谷良美・中島秀男・オレンジスリフティール・島田誠・森栗茂一・神戸リサイクルセンター・炊き出し委員会・竜田美枝子・兵庫遊戯業協同組合・白水士郎・阪神高齢者・障害者支援ネットワーク・KCCライフプランセミナー・あじさいの会・パンブリー・coop・被災地NGO協働センター・SMBCIA・ぼたんの会・募金箱α

◆正会員 個人34名 団体5名  
◆賛助会員 個人82名 団体20名  
◆寄付・募金合計金額 3,343,602円

## 会員数とご寄付の報告

（2004年4月～2005年3月）

「しみん基金・KOBЕ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円  
賛助会員 年間 10,000円



お申し込みは電話・FAX・電子メールなどで、お名前・住所・電話番号をお知らせ下さい。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通7965892  
みなと銀行 本店営業部 普通1597921  
近畿ろうきん 神戸支店 普通4161854  
郵便振替 00990-5-157334  
口座名義「しみん基金・こうべ」

### ◆ あ と が き ◆

そういえば、と、思い出しました。別の団体で事務をしていた時、助成金を申し込んでも、不合格通知をもらったことが何回もあった。通知は決まって「べちゃんこの封筒、一枚きりのA4紙、そして味気のない、残念ながら云々」という文字が並んでいました。

今、その決まり文句を送る側において、選考にパスしなかった団体の添付資料を一つ一つファイリングする時、活動の様子を伝える勢いのある文字やスナップ写真の温かい表情が目にとまり、背景にある深い志に心奪かれます。結成時の初心がふくらんで、走り続けている姿は頼もしいばかり。思いつきを思いつきのままで終わらせない工夫の数々にも感服してしまいます。

時には継続のための手立てがついてこないこともあるかもしれませんが、どのような試練も足場にして、さらに一層成熟した活動を！合格できなかった団体の分厚いファイルを開きながら抱く、事務員のささやかな願いです。

(S)